

第4章 この計画で私たちが取り組むこと

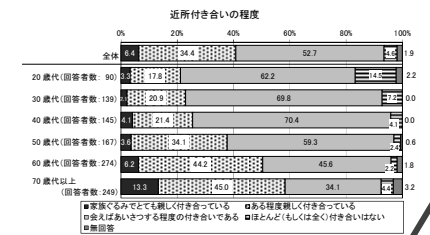
～第4章の見方について～

目標1 ふれあい・交流が盛んな地域をつくる

(1) あいさつや声かけをします

現状と課題

- 核家族の増加など、家族構成の変化や層々の層の多様化などにより、地域の中でのつながりや近所付き合いなどの人間関係が希薄になり、あいさつや声かけがかわされるのが少なくなってきています。
- 市民アンケートでは、近所付き合いの程度は、「会えばあいさつする程度の付き合いである」が半数以上で最も多く、次いで「ある程度親しく付き合っている」が3割半ばとなっています。年代別で見ると、年代が上がるほど、「ある程度親しく付き合っている」が多くなっています。
- 気軽にあいさつや声かけができる関係を地域の中で築くことは、お互いを認め合い信頼することにもつながります。子どもから大人まで、気持ちよくあいさつや声かけができる地域づくりを進める必要があります。



市民の声

【市民アンケートでの自由意見】

- ・子ども達への声かけは大事なが不審者扱いになってしまうことも多く感じる。大人が子ども達に声をかけても安心してあいさつし合える関係を早く築く事が大事だと思う。
- ・人間関係はどれも難しいものかもしれませんが、普段から近所、地域の人達とあいさつすることは大事だと思います。
- ・深谷市は住みよいまちだと思いますが、住民の協力、ルールやマナーを守るという気持ちが希薄なのではないかと感じます。一人ひとりがしっかり考えてほしいですね。
- ・近隣同士が、互いを思いやって声かけしたい。手伝わなければならないならば、小さな地域から居心地の良い環境を作れるのと思う。

「第3章の3. 計画の体系」における施策の方向性ごとに、「現状と課題」を記載しています。また、市民アンケート結果がある場合はグラフも示しています。

「市民の声」として、市民アンケート等で挙げられたご意見を紹介しています。

「第2章の5. 第1次計画の進捗評価」にあるとおり、市民アンケートで各施策の方向性ごとに「積極的に取り組む必要がある」施策を市民の方に選んでいただきました。それらの上位の取り組みのみを項目立てするとともに、それらの項目を選んだ方が現状で実施「できている」という割合を指標とし、目標の数値を掲げています。

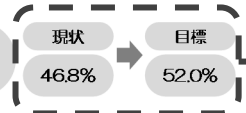
この項目について、市民が取り組んでいく内容です。

市民の取り組みを支援するために、行政及び社会福祉協議会として取り組んでいく内容です。これらは、さまざまな取り組みがある中で、主なものを指標として設定しています。

「現状」は平成25年度の数値、「目標」は5年後の数値です。

①声かけなど隣近所との交流

市民アンケートで、「声かけなど隣近所との交流」が「できている」と回答した方の割合



市民は…

- 回覧板を回すときに声かけするなど、普段からあいさつを心がけ、隣近所と積極的に交流します。



そのために行政は…

- 深谷市子どもサポート市民会議の活動を支援し、パトロールや市民大会において、「3つの運動」(脱いだ靴をそろえよう・すすんであいさつをしよう・ことばを大切にしよう)の啓発を推進します。

【青少年健全育成環境づくり事業】

取り組み内容	現状	目標
パトロール回数	98回	101回
市民大会開催回数	1回	1回

- 自治会連合会との連携を図ることで、自治会や地域の活動を活性化し、地域の連携を高め、また、広報等の配布を自治会に委託し、交流の機会を増やすことで、地域での声かけやあいさつを推進します。

【自治会振興事業、コミュニティ活動推進事業】

取り組み内容	現状	目標
自治会加入率	75.1%	76.0%
広報等の配布協力自治会割合	100%	100%



市民とともに社協は…

- 民生委員児童委員協議会と連携を図り、65歳以上の一人暮らし高齢者に対して声かけや安否確認を実施します。

取り組み内容	現状	目標
安否確認証件人数	15,145人	16,000人

重点施策

本計画では、目標を4つ設定していますが、より一層地域福祉の取り組みを進めていくために、とりわけこれらの目標1から目標4までを横断的に該当する施策について、重点施策として定め、市民と行政が一体となり、協働により地域福祉を推進していきます。

互いに支え合う地域社会をつくる

地域ではプライバシーの問題等から、人々のつながりが薄れつつあり、地域から孤立する高齢者、孤立死といった問題が顕著になる中、高齢者のみ世帯や、高齢者の一人暮らし世帯をはじめとし、援助を必要とする世帯が増加する傾向にあります。

そのため、身近な場所で気軽に集まれる場の提供を推進することなどにより、交流の機会・場を増やし、地域の支え合いの基盤づくりを進めます。

また、これを活かし、地域での支え合いのしくみづくりや、高齢者等の安否確認など、地域の特性に応じた見守り活動を広げることで、ふれあい・支え合い・助け合いによる地域福祉体制を推進していきます。

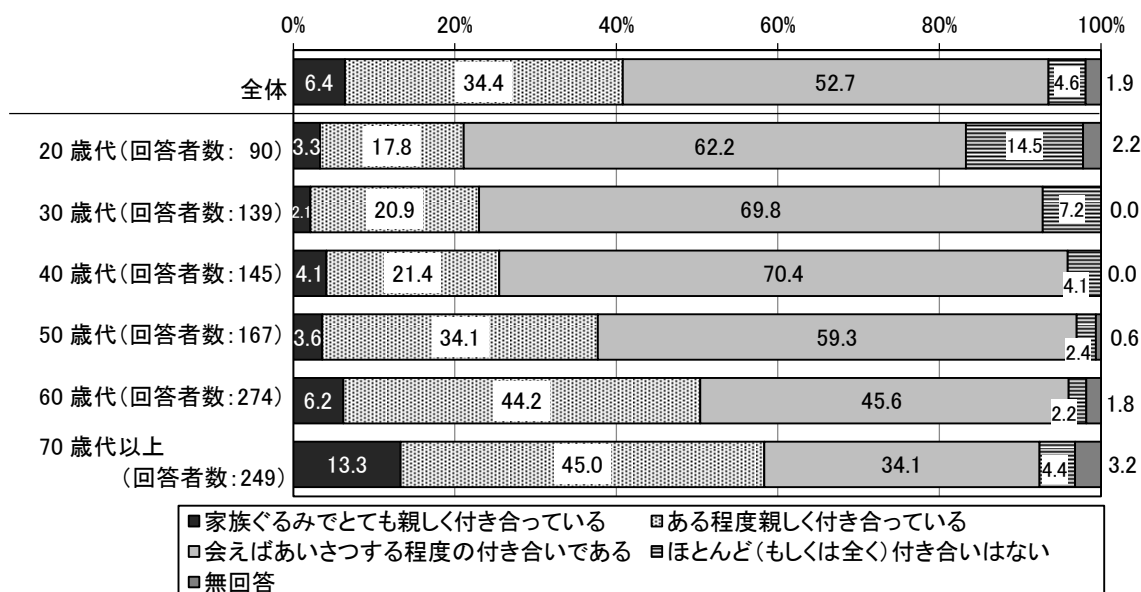
目標 1 ふれあい・交流が盛んな地域をつくる

(1) あいさつや声かけをします

現状と課題

- 核家族の増加など、家族構成の変化や個々の価値観の多様化などにより、地域の中でのつながりや近所付き合いなどの人間関係が希薄になり、あいさつや声かけがかわされることが少なくなってきています。
- 市民アンケートでは、近所付き合いの程度は、「会えばあいさつする程度の付き合いである」が半数以上で最も多く、次いで「ある程度親しく付き合っている」が3割半ばとなっています。年代別でみると、年代が上がるほど、「ある程度親しく付き合っている」が多くなっています。
- 気軽にあいさつや声かけができる関係を地域の中で築くことは、お互いを認め合い信頼することにもつながります。子どもから大人まで、気持ちよくあいさつや声かけができる地域づくりを進める必要があります。

近所付き合いの程度



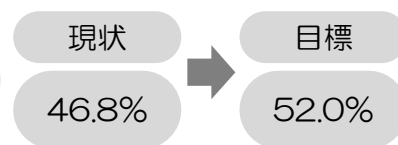
市民の声

【市民アンケートでの自由意見】

- ・子ども達への声かけは大事だが不審者扱いになってしまうことも多く感じる。大人が子ども達に声をかけても安心してあいさつがし合える関係を早く築く事が大事だと思う。
- ・人間関係はとても難しいものかもしれませんが、普段から近所、地域の人達とあいさつすることは大事だと思います。
- ・深谷市は住みよいまちだと思いますが、住民の協力、ルールやマナーを守ると言う気持が希薄なのではないかと感じます。一人ひとりしっかり考えてほしいですね。
- ・近隣同士が、互いを思いやって声かけしたい。手伝ってあげられるならば、小さな地域から居心地の良い環境を作れるのだと思う。

①声かけなど隣近所との交流

市民アンケートで、“声かけなど隣近所との交流”が「できている」と回答した方の割合



- 回覧板を回すときに声かけするなど、普段からあいさつを心がけ、隣近所と積極的に交流します。



- 深谷市子どもサポート市民会議の活動を支援し、パトロールや市民大会において、「3つの運動」（脱いだ靴をそろえよう・すすんであいさつをしよう・ことばを大切にしよう）の啓発を推進します。

【青少年健全育成環境づくり事業】

取り組み内容	現状	目標
パトロール回数	98回	101回
市民大会開催回数	1回	1回

- 自治会連合会との連携を図ることで、自治会や地域の活動を活性化し、地域の連携を高め、また、広報等の配布を自治会に委託し、交流の機会を増やすことで、地域での声かけやあいさつを推進します。

【自治会振興事業、コミュニティ活動推進事業】

取り組み内容	現状	目標
自治会加入率	75.1%	76.0%
広報等の配布協力自治会割合	100%	100%



- 民生委員児童委員協議会と連携を図り、65歳以上の一人暮らし高齢者に対して声かけや安否確認を実施します。

取り組み内容	現状	目標
安否確認延べ人数	15,145人	16,000人

②社会のモラル・マナーの教育

市民アンケートで、“社会のモラル・マナーの教育”が
「できている」と回答した方の割合

現状

9.2%

目標

14.0%



市民は…

- 基本的なあいさつや社会のモラル・マナーを子どもの頃から習慣づけます。



そのために
行政は…

- 空き地の除草などの適正な管理指導や、犬のフンの適正な処理を促すための注意看板を無料で配布し、犬の飼い主のマナー向上を図ります。また、ごみの出し方・分け方のルール徹底を図るなど、社会のモラル・マナーを向上するための情報を発信します。

【地域環境美化活動推進事業】

取り組み内容	現状	目標
「ごみの分け方・出し方」啓発チラシ配布数	53,892 枚	54,000 枚
雑草等苦情処理率	81.7%	100%

- 親が親として育ち、力をつけるため、「親の学習」講座を実施します。

【家庭教育事業、社会教育事業】

取り組み内容	現状	目標
「親の学習」講座の開催	22 回	25 回



市民とともに
社協は…

- ボランティア活動をするときのマナーを向上するための情報を発信します。

取り組み内容	現状	目標
ボランティア活動をするときのマナー向上 啓発実施回数	—	150回

(2) 交流できる居場所を地域につくります

現状と課題

- 近所付き合いが希薄となりつつある中、地域の身近な場所で、さまざまな年代の人が気軽に集い、交流する機会が少なくなっています。
- 平成 26 年 3 月末現在のふれあい・いきいきサロン実施状況は 88 地区で、サロン応援隊の登録数は 47 団体となっています。サロンの参加回数、参加人数、サロン応援隊の登録数は年々増加傾向にあります。
- 団体アンケートでは、多くの団体が地域とともに、サロンや見守り、各種交流のための行事などを実施していることが分かりました。
- 地域のつながりをつくる上では、市民一人ひとりが身近なところでの交流やふれあいを大切にするとともに、誰もが主体的に地域の活動や交流の場に参加できるよう促していくことが重要です。
- 深谷市では、市民と行政とが協働し、ガーデニングをまちづくりの中心のひとつに据えた「ガーデンシティふかや」を実践しています。今後も、ガーデニングを通じた生きがいつくり、交流の場としての重要性を市民に周知し、より多くの市民の参加を促していくことが重要です。

市民の声

【市民アンケートでの自由意見】

- ・地域の人が気軽に集う場所があれば良いと思います。
- ・年配者と子どもとその親との交流の場があれば、知らない子どもが減って気軽に声をかけやすくなり、いい事、悪いことを地域の人たちが教えてあげられる。最初は強制的に交流の場を用意しなければだめだと思われるがぜひ実行してほしい。地域の子供会と老人クラブを活用すればいいのでは。
- ・私の住んでいる地区の隣組で昨年花見をやったとき、とても寒かったので、区長さんに話をして集会場を使わせていただきました。火の元や安全に関して決まり事を守るようにして集会場を使えると、気軽に地域の人との交流が持てるのではないかと思います。
- ・地域住民がいつでも気軽に交流できる施設を早急に設置してほしいと思います。高齢者、若者、子どもたちが安心して活動できる場所が良いと思います。
- ・先日（平成 26 年 2 月）の大雪で嬉しい発見がありました。いつもは挨拶を交わす程度の近所の方たちが 10 人くらい集まって、語り合いながら楽しそうに雪かきをしていました。その光景を目にしたとき、深谷市の将来に明るい光が見えた気がしました。

【団体アンケートでの意見】

- ・次世代交流として「子供会」と「いきいきサロン」との交流で「よみきかせ、紙しばい」や手作りのお昼ごはんなどで楽しむ。

①世代間交流ができる場を設ける

市民アンケートで、“世代間交流ができる場を設けること”が「できている」と回答した方の割合

現状

5.4%

目標

10.0%



市民は…

- 若い世帯や転入者が地域行事に参加しやすくします。
- 地域の団体が連携して、年代を問わず市民が気軽に集える機会をつくり、参加を呼びかけます。



そのために
行政は…

- 生涯学習の場を提供することで、世代を超えて地域のたくさんの人と出会い、交流できる場をつくります。

【学級講座等開設事業】

取り組み内容	現状	目標
学級講座開催延べ回数	264回	300回

- 体育祭、公民館まつりなどをはじめとした体育レクリエーション事業を開催し、地域住民のコミュニケーションや、世代間のコミュニティの推進を図ります。

【体育レクリエーション事業】

取り組み内容	現状	目標
体育レクリエーション事業参加者数	70,489人	87,600人



市民とともに
社協は…

- ふれあい・いきいきサロンの活動の周知を図るとともに、活動の活性化に努めます。

取り組み内容	現状	目標
ふれあい・いきいきサロン開催地区数	88地区	100地区

②既存施設を充実させ、有効活用する

市民アンケートで、“施設を充実させること”が
「できている」と回答した方の割合

現状

8.5%

目標

13.0%



市民は…

- 地域にあるさまざまな既存施設を有効活用し、集える場所を提供します。
- マナーを守り、使用するよう心がけます。



そのために
行政は…

- 自治会運営やコミュニティ活動の円滑化を図るため、地域コミュニティ*の活動拠点となる自治会館の建設や改修に対して補助金を交付します。

【自治会活動振興事業】

取り組み内容	現状	目標
自治会館建設・改修の補助金交付率	100%	100%

- 公園を憩いの場として快適に利用できるよう、苦情等を受け付けた際には速やかに対応します。また、維持管理・清掃・点検を行うことで安全で清潔に利用できる公園環境の充実を図ります。

【公園維持管理事業】

取り組み内容	現状	目標
苦情対応率	100%	100%



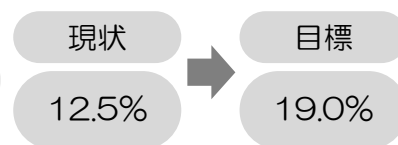
市民とともに
社協は…

- 屋内ゲートボール場（すぱーく深谷・すぱーく岡部）の有効活用を図るとともに、持続的な利用が可能となるよう管理します。

取り組み内容	現状	目標
屋内ゲートボール場すぱーく深谷利用日数	239日	250日
屋内ゲートボール場すぱーく深谷利用者数	5,121人	5,700人
屋内ゲートボール場すぱーく岡部利用日数	169日	180日
屋内ゲートボール場すぱーく岡部利用者数	5,135人	5,700人

③サロンなど気軽に集う機会をつくる

市民アンケートで、“サロンなど気軽に集う機会をつくること”が「できている」と回答した方の割合



市民は…

- ふれあい・いきいきサロンなど気軽に集う場をつくります。
- 関係機関・団体と連携して、ふれあい・いきいきサロンの活動内容を充実します。



そのために
行政は…

- 深谷市社会福祉協議会が行っている「ふれあい・いきいきサロン活動事業」について支援します。

【地域保健福祉活動推進事業費補助金】

取り組み内容	現状	目標
ふれあい・いきいきサロン延利用者数	14,313人	16,000人

- 身近な場所で気軽に集まることができる、多様な出会いの場、交流の場、仲間づくりの場を支援し、より多くの「地域のお茶の間」の創出を推進します。

【地域福祉推進事業】

取り組み内容	現状	目標
地域のお茶の間開設数	—	30箇所



市民とともに
社協は…

- ふれあい・いきいきサロンの活動の周知を図るとともに、活動の活性化に努めます。

取り組み内容	現状	目標
ふれあい・いきいきサロンを毎月1回以上開催している地区数	14地区	20地区



(3) 健康づくりで地域を明るくします

現状と課題

- 日本の平均寿命は世界最高水準にありますが、がん・脳卒中・心臓病・糖尿病などの生活習慣病は増加傾向にあり、いつまでも健康でいきいきと暮らしていくためには、生活習慣を見直し、疾病の発生そのものを予防する一次予防を重視することが必要となっています。
- 市では、30歳代健康診査、健康増進法に基づく健康診査、各種がん検診（胃がん、肺がん、大腸がん、子宮頸がん、乳がん、前立腺がん）、肝炎ウイルス検査、骨粗しょう症検診などの各種健診を実施しています。
- 健康づくりや仲間づくり、生きがいくりの重要性を市民に周知し、より多くの市民を巻き込んだ活動をさらに実践していくことが大切です。



市民の声

【市民アンケートでの自由意見】

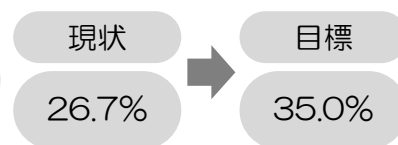
- ・まず、一人ひとりが、自分の健康管理をできるように努力し、隣近所の方々との交流を大切にすることが大事だと思います。
- ・近隣に数多くのアパートが新築され、新しい住民が多数増えているのに、全くといって付き合いが生まれません。地域ぐるみの運動会、歩け歩け運動等、もっと関係ができるようなしくみを増やしてほしい。今現在は、現役世代であまり時間を取ることができませんが、時間が余る年代になったら、ぜひとも福祉に参加したいと思いますので、その足がかりだけでも完成させておいてほしいと切にお願いいたします。
- ・健康を守るために、若い人達も含め一人ひとりがかかりつけ医をもってほしい。また、各々がPPK（ピンピンコロリ）で生涯を飾っていけるように、人を頼らなくても大丈夫なように考え工夫し、努力することが重要。
- ・これからは、高齢者が増えていくので、介護施設を利用できる人達が利用できなくなり、自分の事は自分でしなくてはならなくなると思います。長野県のように個人個人に健康でいられるような指導や取り組みが必要だと思います。
- ・寝たきりにならないために足腰等をきたえる軽い運動を市の方で定期的に行ってほしいと思います。遠くには行けないので各公民館等で行ってもらえれば嬉しいです。

【団体アンケートでの意見】

- ・高齢者「サロン」等で寝たきりにならない様にロコモ体操等を指導しています。
- ・コミュニティランドゴルフ（小学校3年生～老人クラブまで）、市民体育祭、歩け歩け大会などを地域と連携して実施。

①適度な運動を日常に取り入れる

市民アンケートで、“適度な運動を日常に取り入れること”が「できている」と回答した方の割合



市民は…

- 適度な運動を日常に取り入れます。
- 日常生活において、体力の維持・向上を心がけます。



そのために
行政は…

- 地域の健康状況などを踏まえた講座や運動・栄養に関する教室、講座等を実施し、自宅でも継続できる運動など健康づくりに関する取り組みを実施します。

【健康教育訪問事業、介護保険地域支援事業、スポーツ推進委員活動推進事業】

取り組み内容	現状	目標
健康教育実施回数	122回	150回
介護予防教室の開催数	41回	100回
スポーツ教室の開催	7回	7回



市民とともに
社協は…

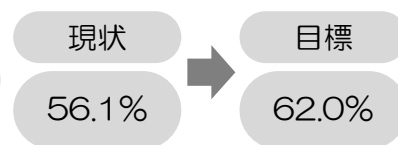
- ふれあい・いきいきサロンで運動など健康づくりに関する情報を提供します。

取り組み内容	現状	目標
健康に関する内容を実施したサロン数	177回	200回



②定期的な健康診査を受ける

市民アンケートで、“定期的な健康診査を受けること”が「できている」と回答した方の割合



市民は…

●定期的に健康診査を受けるように努めます。



そのために
行政は…

●生活習慣病などの早期発見、早期治療のため、健康診査やがん検診を実施します。

【特定健康診査等事業、がん検診事業】

取り組み内容	現状	目標
特定健診実施率	31.3%	60.0%
胃がん検診受診率	15.3%	40.0%

●健康マイレージ事業の必須項目に健（検）診受診を設定し、広報、ちらし等で、市が行う各種健康診査・がん検診等の情報を周知します。

【健康マイレージ事業】

取り組み内容	現状	目標
健康マイレージ事業参加者	—	1,200人

●広報等により、「かかりつけ医」を持つことを啓発します。

【健康づくり推進事業】

取り組み内容	現状	目標
啓発回数	5回	8回



市民とともに
社協は…

●安否確認事業を通して、健康についての情報を発信します。

取り組み内容	現状	目標
熱中症やインフルエンザ、ノロウイルスなどの予防啓発実施回数	1回	3回

目標2 SOSに伝えるしくみをつくる

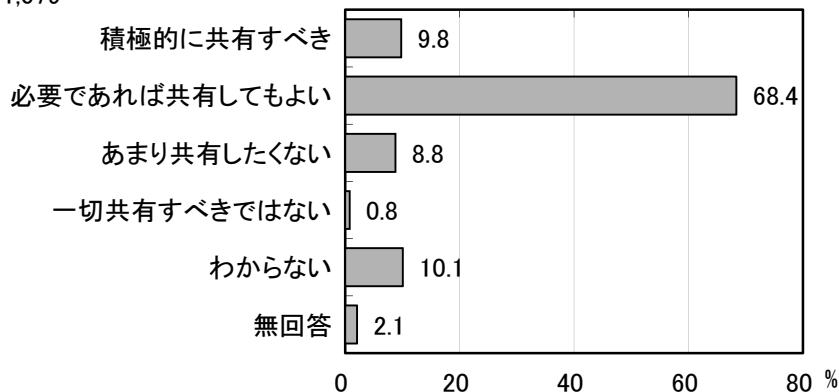
(1) ヘルプが出しやすいしくみをつくります

現状と課題

- 地域においては、高齢者をはじめ、障害のある方、子育てをしている人など、生活をする上でさまざまな支援を必要とする人が多くなってきています。
- 地域での支え合いや孤立死の防止等のために、自治会等を単位とした支援者が必要な個人情報共有することについては、「積極的に共有すべき」と「必要であれば共有してもよい」を合わせると、約8割が共有してもよいとの考えとなっています。
- 平成26年3月末日時点で、災害時等要援護者名簿の登録者数は3,223人となっていますが、高齢者等見守り活動補助金を活用した見守り活動の対象者数は384人となっています。
- 支援の必要な人たちが身近な地域で安心して生活していけるよう、困っていることや問題を早期に発見し、見守りや相談にのるなどの対応が必要です。

支援者が必要な個人情報を共有することについて

回答者数: 1,079



市民の声

【市民アンケートでの自由意見】

- ・一人暮らしの安否確認（隣との仲が良くないこともある）と、体調の悪い時の病院の受け入れがスムーズに行く様に。
- ・支援の必要な人の把握と見守りが円滑にできる情報共有システムの構築。（例えば閲覧板を回して共有。閲覧することで地域、近所の支援を要する方を前もって知っておくことができる。または定期的な集会などの実施で情報を共有）地域で困っている人を支えられたら安心ですね。

【団体アンケートでの意見】

- ・地域の見守り、地域住民の身近な相談相手、行政をはじめ専門機関へのつなぎなど地域住民の立場に立って地域福祉を担うボランティア活動を行っている。
- ・日々の生活の中で、心配事等気軽に相談できる場所や人の配置を、との声を聞きます。

①支援が必要な人の把握と見守り

市民アンケートで、“支援が必要な人の把握と見守り”が「できている」と回答した方の割合

現状

6.9%

目標

11.0%



- 支援が必要な人は、災害時等要援護者名簿に登録します。
- 民生委員児童委員を中心に、支援が必要な人の把握に努め、見守り支援をします。
- 隣近所など地域で支援が必要な人を見守ります。



- 地域において支援の必要な人を把握するため、災害時等要援護者名簿を地域の関係団体に提供するとともに、この名簿の情報をもとに、各自治会単位での地域支え合いマップの作成に協力するなど、平常時における見守り活動を支援します。

【地域福祉推進事業】

取り組み内容	現状	目標
地域支え合いマップ作成自治会数	190 自治会	202 自治会
高齢者等見守り活動補助金を活用した見守り実施団体数	57 団体	100 団体

- ライフライン事業者及び配達関係事業者等と「深谷市見守りネットワーク*に関する協定」を締結することで、見守り活動を推進します。

【地域福祉推進事業】

取り組み内容	現状	目標
深谷市見守りネットワークに関する協定締結事業者数	10 社	15 社

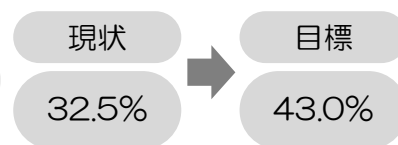


- 民生委員児童委員協議会と連携を図り、65歳以上の一人暮らし高齢者に対して声かけや安否確認を実施します。

取り組み内容	現状	目標
安否確認延べ人数	15,145 人	16,000 人

②身近に相談相手をつくる

市民アンケートで、“身近に相談相手をつくること”が
「できている」と回答した方の割合



市民は…

- 身近に相談できる相手をつくります。
- 親族、友人、隣近所の方などからの相談に応じます。



そのために
行政は…

- 民生委員児童委員についてPR活動を実施し、その認知度を高めることで、地域の相談役としての活動を推進します。また、民生委員児童委員へ相談すれば行政につなげられるよう、民生委員児童委員との連携を密にします。

【民生委員児童委員運営事業】

取り組み内容	現状	目標
PR活動実施回数	—	3回
民生委員児童委員活動内容の認知度	36.3%	45.0%



市民とともに
社協は…

- 地域住民からの相談に応じ、問題解決に向けて、行政をはじめ民生委員児童委員、福祉施設、ハローワークなど関係機関と連携して対応します。

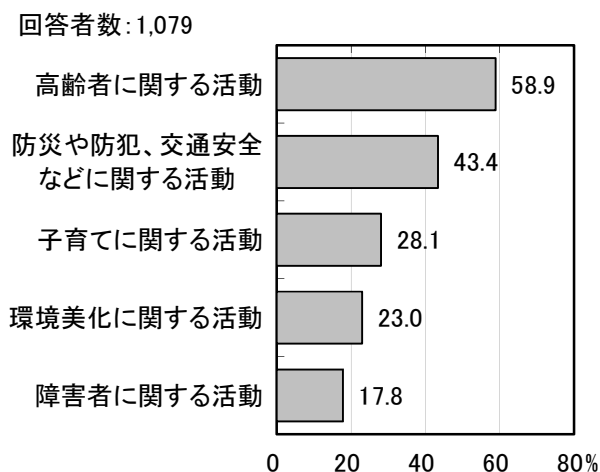
取り組み内容	現状	目標
身近な相談窓口として社会福祉協議会の活動内容を知っている割合	25.3%	30.0%

(2) 地域ぐるみで防犯活動を強化します

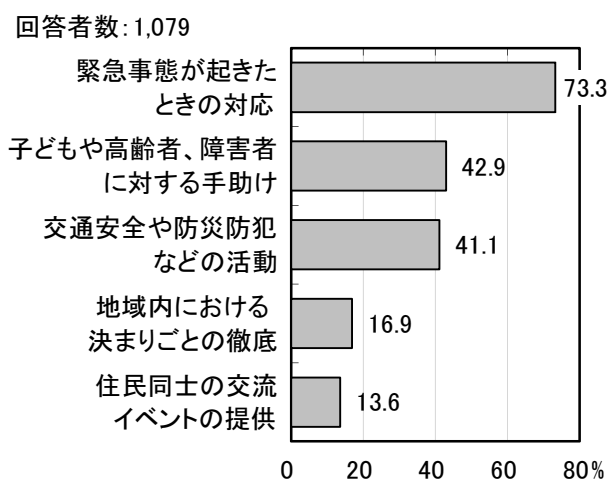
現状と課題

- 近年、子どもや女性、高齢者などの弱者をねらう犯罪が増加傾向にあることから、地域における防犯力向上が重要となっています。
- 市民アンケートでは、「今後必要なボランティア活動の分野」や、「安心して暮らしていくために地区の組織や団体に期待する活動内容」について、防犯・防災などの活動が上位3位以内となっており、地域ぐるみの防犯活動の必要性が認識されています。
- 「自らの安全は自ら守り、地域の安全は地域で守る」という防犯意識のもと、地域ぐるみの防犯活動をより一層推進していくことが必要です。

今後必要なボランティア活動の分野(複数回答)



安心して暮らしていくために地区の組織や団体に期待する活動(複数回答)



市民の声

【市民アンケートでの自由意見】

- ・子ども達を守り、高齢者に対する助けをするまちづくりをしたいと思いました。
- ・子どもの安全を守るため、地域に「こども110番の家」のマークを掲げている人達にかけ込みが1年に何人位いるのかアンケートをとってもいいのではないですか。防犯に役立つのでは。
- ・最近道路は整備されましたが道路よりも街灯の整備を早くしてほしい。夜真っ暗な中帰宅している中学生や高校生を見ると怖くなる。

【団体アンケートでの意見】

- ・小学生の登下校の時間は、週1での見守りを行っている。
- ・地域の人から、振り込め詐欺の電話がかかってきたと相談を受け、振り込め詐欺からの電話には十分注意するように話した。外部からの電話が怖くなったと聞いたので、話し相手となり心のケアにつとめた。

①見守り活動や声かけ運動の実施

市民アンケートで、“見守り活動や声かけ運動の実施”が「できている」と回答した方の割合

現状

11.5%

目標

18.0%



- 小・中学校の登下校の時間にあわせて、児童の交通安全と防犯につながるよう、見守りに努めます。
- 「こども110番の家*」の設置に協力します。



- 自治会への自主防犯組織結成の呼びかけや、活動時に使用する防犯グッズを配布し、深谷市防犯協会や寄居地域安全防犯協会などと連携しながら自主防犯組織が実施する防犯パトロールへの支援を行います。

【防犯のまちづくり支援事業】

取り組み内容	現状	目標
自主防犯組織の設置数	118 団体	202 団体

- 小・中学校の登下校の時間にあわせて、青色回転灯装着車両によるパトロールや、自主防犯組織との連携による計画的な防犯パトロールの実施、また、小学校交通安全立哨指導、スクールガードリーダーによる登下校時の見守りなどを実施します。

【防犯のまちづくり支援事業、市内における地域ぐるみの防犯活動】

取り組み内容	現状	目標
防犯関係活動団体数	193 団体	219 団体
青色回転灯装着車両によるパトロール回数	42 回	42 回



- 小・中学校の登下校の時間にあわせて、見守り活動や防犯パトロールを実施している団体に対し、ボランティア活動保険料の半額を負担します。

取り組み内容	現状	目標
ボランティア活動保険に加入した防犯関係のボランティア数	11 人	20 人

- ふれあい・いきいきサロンで防犯に関する情報を提供します。

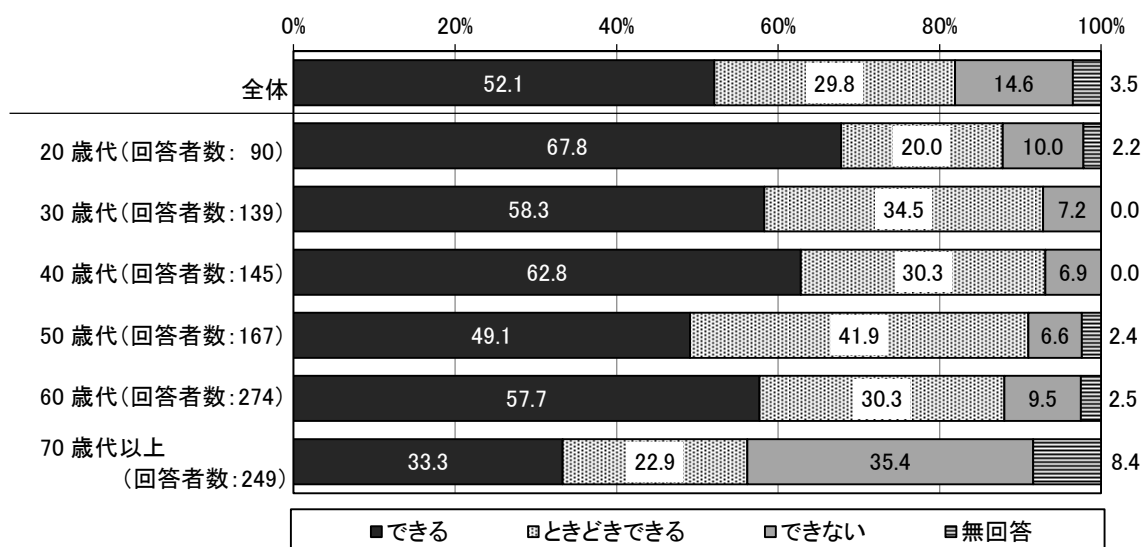
取り組み内容	現状	目標
防犯に関する内容を実施したサロン数	24 回	30 回

(3) 災害に対して安心できる地域をつくります

現状と課題

- 近年、全国各地で地震や局地的な豪雨などの自然災害が多発しており、災害などの緊急時に備えた取り組みの重要性が増しています。
- 市民アンケートでは、災害時の手助けについては、「できる」が半数以上と最も多く、次いで「ときどきできる」が約3割となっています。年代別でみると、60歳代までは「できる」が最も多くなっています。
- 災害に強いまちづくりを進めるためには、市民一人ひとりの意識向上を図り、地域における防災力を高め、市民や関係機関・団体、行政などが協力して、自助・共助・公助を基本とする防災対策に取り組む必要があります。

災害時の手助け



市民の声

【市民アンケートでの自由意見】

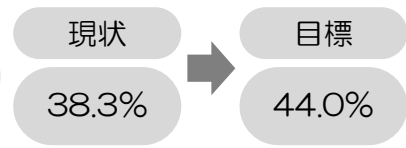
- ・大きな災害があった時一人ひとりが判断できるような教育や訓練がしてあれば少しでも犠牲者が少なくなるのではないかと思います。地区の皆で1年に何回か集まって訓練を行ったり、講習や講演があったら皆で受けられると思います。
- ・災害時の際は、地域の人とのつながりがとても大切になるが、つながりは急にできることはないからその時のための交流が普段から図れるといいと思う。

【団体アンケートでの意見】

- ・見守りマップづくりや防災活動を通じて地域の人々の声かけや交流が大切であると思う。

①避難場所を把握する

市民アンケートで、“避難場所を把握すること”が
「できている」と回答した方の割合



- 防災訓練に参加します。
- 地域の避難路、避難場所、防火水槽、防災倉庫の位置や状況を事前に確認します。



- 防災訓練を実施して、防災意識及び防災知識の向上を図ります。また、市ホームページやハザードマップ*に指定避難所を記載し周知するとともに、災害発生時における、要援護者の避難援護について、各福祉施設と福祉避難所*の設置運営に関する協定を締結します。

【防災機能強化事業】

取り組み内容	現状	目標
総合防災訓練実施回数	1回	1回
総合防災訓練参加者数	1,766人	1,800人
福祉避難所設置数	21施設	23施設



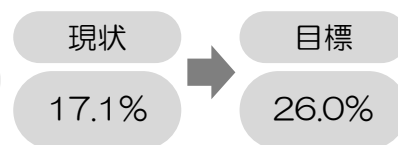
- 平時より災害や防災に関する技術を習得し、いざ災害が起こったときには、被災地で活動を行っていただく災害ボランティアを養成します。

取り組み内容	現状	目標
災害ボランティア養成講座の参加者数	15人	50人



②各家庭において災害対策を講じる

市民アンケートで、“各家庭において災害対策を講じること”が「できている」と回答した方の割合



市民は…

- 家具の転倒防止対策を講じます。
- ブロック塀などの点検・改善を実施します。
- 食料・飲料水を備蓄しておきます。
- 災害用伝言ダイヤルや各家庭における緊急時の連絡先を確認しておきます。



そのために
行政は…

- 地域ごとに自主防災組織の育成強化を図り、市民の防災意識や防災知識の普及と啓発に努めます。また、「深谷市地域防災計画」に基づき、防災対策の充実を図ります。

【防災機能強化事業】

取り組み内容	現状	目標
自主防災組織の組織数	119 団体	202 団体



市民とともに
社協は…

- 災害発生時に、災害ボランティアに協力を要請します。

取り組み内容	現状	目標
災害ボランティアの登録者数	117 人	150 人



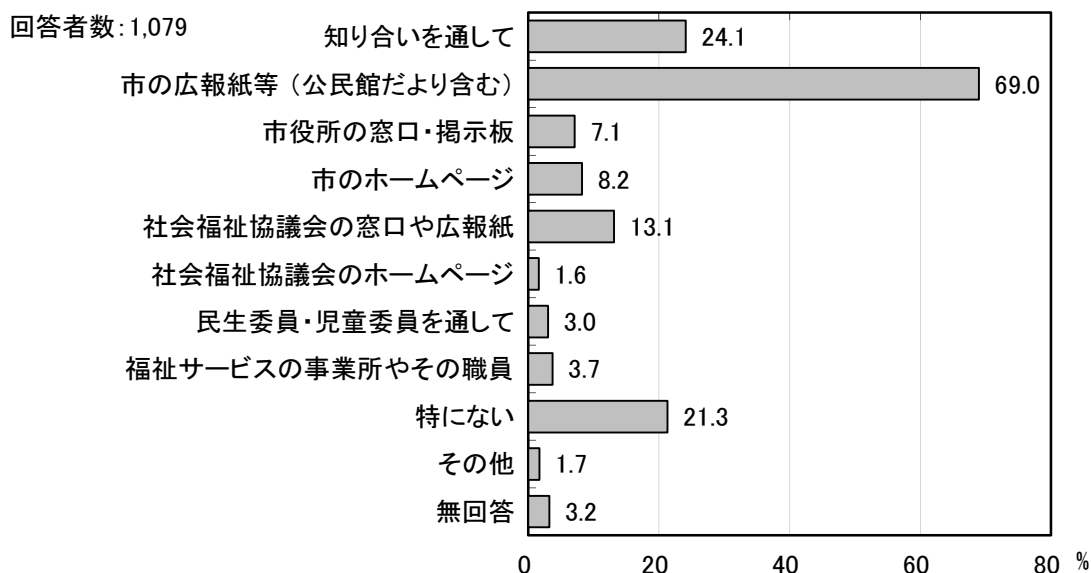
目標3 サービスが利用しやすい環境をつくる

(1) 情報が得やすく、相談しやすい体制をつくります

現状と課題

- 地域で生活していく上で必要なサービスや、地域における身近な活動に関する情報は非常に多く、多岐にわたっています。
- 市民アンケートでは、地域活動やボランティア活動など身近な地域に関する情報源については、「市の広報紙等（公民館だより含む）」が69.0%と7割弱で最も多く、次いで「知り合いを通して」が24.1%となっています。
- 行政の情報提供機能を高めることはもちろん、地域内で福祉サービスに関する情報を共有できるような体制を整備することが求められます。

身近な地域に関する情報源(複数回答)



市民の声

【市民アンケートでの自由意見】

- ・困った場合、どこに相談してよいかわからない。民生委員児童委員も知らない。
- ・地域住民に直接接する人として、民生委員児童委員などの人員を大幅に増やし、頻繁に住民に接することができるようになれば、互いに親密になり、積極的な情報交換につながると考えられます。
- ・班長が1年間責任を持って班内の見回り、声かけを積極的に行うようにしたら良い。また、市からの情報を広報紙だけでなく、各家を訪ねて説明する（そのために内容把握できる講習会に出る）などの役目を与えることで、学ぶ機会にもなると思う。

【団体アンケートでの意見】

- ・民生委員児童委員協議会での定例会を充実させ、活動での発見や困ったことなど発表し合い、情報を共有していきたいと考えている。

①地域で情報を共有する

市民アンケートで、“地域で情報を共有すること”が「できている」と回答した方の割合

現状

7.0%

目標

11.0%



市民は…

- 関係機関・団体は、自らが行うボランティア活動や地域行事の情報を市民に発信します。
- 地域に関する情報の提供手段として回覧板をさらに活用します。



そのために
行政は…

- 地域に密着した情報発信源として、「公民館だより」を発行し、広報とともに配布します。また、誰もが情報を共有できるよう、内容の充実を図ります。

【公民館だより発行事業】

取り組み内容	現状	目標
公民館だより発行部数	576,240部	576,240部

- 地域コミュニティに寄与する取り組みと位置づけ、自治会へ「広報ふかや」の配布をはじめとした業務を委託します。

【コミュニティ活動推進事業】

取り組み内容	現状	目標
広報等の配布協力自治会割合	100%	100%

- 関係機関、関係団体との連携により、各地域での取り組み状況についての情報交換や地域福祉に関する意見交換及び課題について検討する機会を設けます。

【地域福祉推進事業】

取り組み内容	現状	目標
見守りネットワーク協定締結事業者による情報交換会の開催	—	1回
地域福祉懇談会の開催	—	202回



市民とともに
社協は…

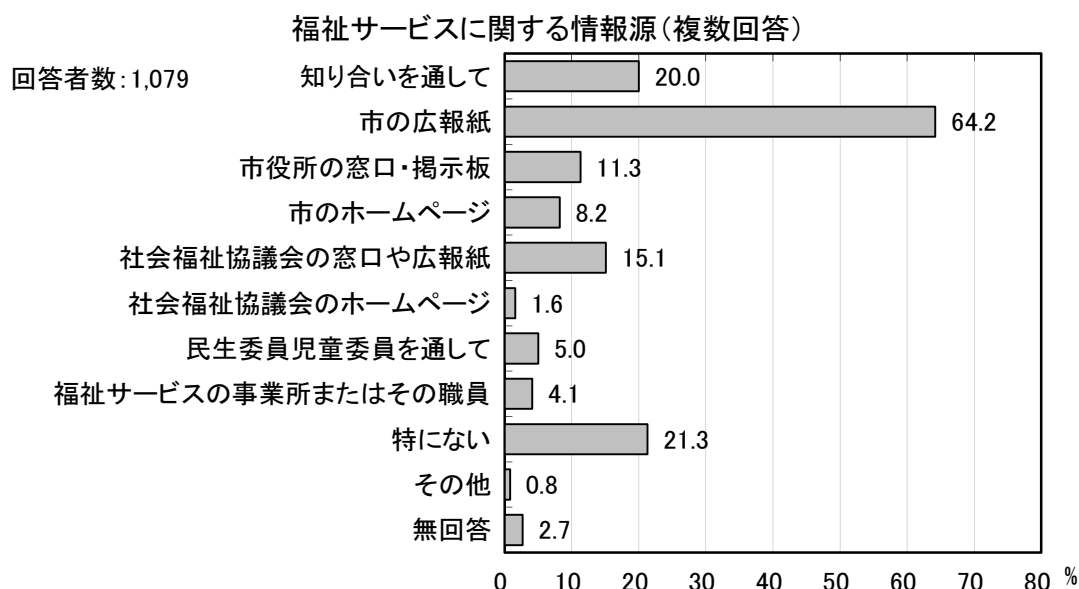
- 「社協だより」、「社会福祉協議会ホームページ」、「ボランティアだより」、「ボランティアかわらばん」により、地域福祉に関する情報を発信します。

取り組み内容	現状	目標
社協だより発行回数	5回	5回
社会福祉協議会ホームページアクセス数	11,825件	13,000件
ボランティアだより発行回数	2回	2回
ボランティアかわらばん発行回数	5回	5回

(2) 適切なサービスを提供します

現状と課題

- 福祉サービスが多様化する中で、利用者自身が福祉サービスを選択する力が求められるようになってきています。
- 市では高齢者福祉・障害者福祉・児童福祉に関する個別の計画を策定し、それぞれに沿った福祉の施策や事業を進めています。
- 市民アンケートでは、「福祉サービス」に関する情報の主な入手先については、「市の広報紙」が64.2%と最も多く、次いで「知り合いを通して」が20.0%となっています。また、「特にない」との回答も21.3%ありました。
- 誰もが安心して必要なサービスを利用できるよう、サービスに関する情報提供を充実するとともに、福祉サービス利用援助事業*や成年後見制度*などの周知・利用促進を図ることが大切です。



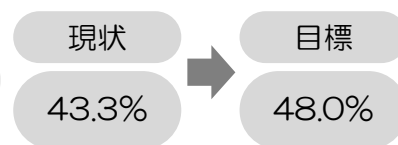
市民の声

【市民アンケートでの自由意見】

- ・必要な時にサービスの利用ができるよう、より広報の充実を望む。
- ・最近ではツイッターで新しい情報をすぐに得られていることが助かっています。ネットが苦手な世代にも同様にリアルタイムに情報がいくといいなと思っています。
- ・市のホームページや広報に具体的に、「〇〇で困っている場合→〇〇へ電話する→…→解決」という例があるとよいと思う。どういう流れで解決に向かうかわかると、悩んでいるのに相談しない人が減ると思う。市のホームページや広報でもっと情報を発信することが、地域とのつながりがない人達が地域活動に参加したり、気軽に相談したりするきっかけになると思う。

① 広報を読み情報を得る

市民アンケートで、“広報を読み情報を得ること”が
「できている」と回答した方の割合



- 「広報ふかや」や「社協だより」、回覧板などを読み、市をはじめ関係機関・団体からの情報に目を通し、福祉サービスについての正しい認識を深めます。
- 福祉サービス利用援助事業や成年後見制度についての知識を身につけるよう努めます。



- 必要な福祉サービスを利用できるよう、サービス内容やその利用方法等について、「広報ふかや」や「市ホームページ」などにより、情報発信を行います。また、誰もが情報を得やすいよう内容の充実を図ります。
【広報ふかや発行事業、情報発信事業】

取り組み内容	現状	目標
広報ふかやの認知度 ※	84.0%	85.0%
市ホームページアクセス数	44,557 件	45,000 件

※出典は e アンケートによる

- 福祉サービス利用援助事業や成年後見制度などサービス利用を支援する事業について、パンフレットを発行し、広報折込みにより配布することで、情報提供を行います。

【高齢者福祉政策推進事業】

取り組み内容	現状	目標
パンフレット発行部数	48,300 部	48,300 部



- 福祉サービス利用援助事業や成年後見制度などサービス利用を支援する事業について情報提供を行います。

取り組み内容	現状	目標
福祉サービス利用援助事業や成年後見制度について社協だよりなどへの掲載回数	—	2 回

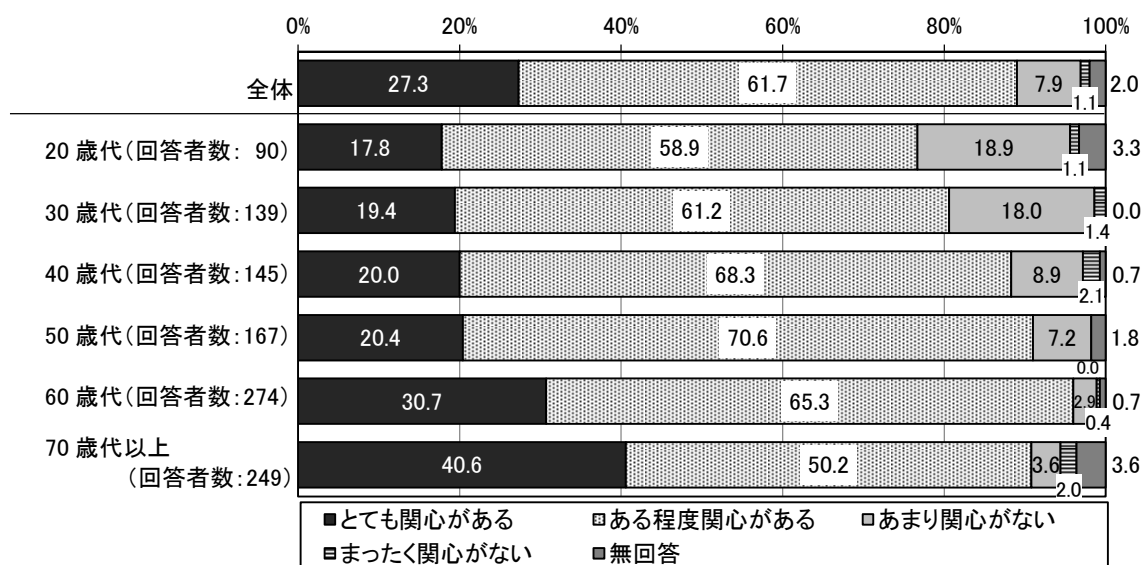


(3) 社会参加しやすい環境づくりを支援します

現状と課題

- 高齢者で介護を必要とする方や障害のある方などが、さまざまな制限にとらわれることなく、自由に外に出てそれぞれの能力を活かしながら、就労・趣味や地域活動、ボランティア・スポーツ・レクリエーションなどの活動に参加できる環境づくりが求められています。
- 市民アンケートでは、地域の福祉課題への関心度については、「ある程度関心がある」が6割を超えて最も多く、「とても関心がある」と合わせると『関心がある』が約9割を占めています。年代別でみると、60歳代以上では「とても関心がある」が3割を超え他の年代に比べて多くなっています。
- より多くの方が安全で快適な生活ができるように、心のバリアフリー*の浸透や、ユニバーサルデザイン*をまちづくりに取り入れていくことが必要です。

地域の福祉課題への関心



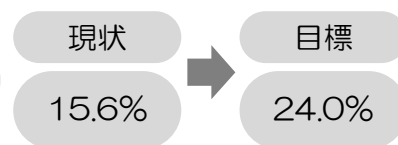
市民の声

【市民アンケートでの自由意見】

- ・障害のある子ども達も健常者（児）と一緒に地域で暮らせるよう、小学校低学年のうちから学校でも他の教科と同じように教育していただきたいと思います。差別、いじめ、つらい思いをする人達がいらない社会にするために親子で教育（研修）をしてほしいです。私も参加したいです。
- ・今後もサービスの充実と障害のある方やその家族、高齢者が安心して暮らしていけるようにと思っています。

①高齢者や障害のある方への理解を深める

市民アンケートで、“高齢者や障害のある方への理解を深める”が「できている」と回答した方の割合



市民は…

- 高齢者や障害のある方への理解を深めます。
- 集会や行事などへの参加に際し、介助が必要な人に対しサポートを行います。



そのために
行政は…

- 心のバリアフリーやユニバーサルデザインの考え方を広く市民に理解してもらうための講座等を開催します。
【ユニバーサルデザイン推進事業、地域生活支援事業、介護保険地域支援事業、人権教育・啓発推進事業】

取り組み内容	現状	目標
ユニバーサルデザインの普及啓発活動実施回数	2回	8回
ユニバーサルデザインの普及啓発活動参加者数	318人	800人
障害者等の理解を深めるための講演会	1回	1回
障害者文化作品展来場者数	1,155人	1,500人
認知症サポーター養成講座参加者数	401人	500人
人権問題自治会別研修会参加者数	1,190人	1,200人

- 障害のある方が自立した生活を営み、社会参加しやすい環境を実現していくため、生活課題やニーズに応じるとともに、障害者スポーツ大会への参加支援に取り組みます。

【地域生活支援事業】

取り組み内容	現状	目標
障害者スポーツ大会参加者数	747人	750人
移動支援事業月利用時間	572時間	700時間
手話通訳者派遣数	692件	705件
要約筆記者派遣数	20件	25件

市民とともに
社協は…



- 福祉教育を行う小・中学校の総合的な学習の時間において、ボランティア団体や障害者団体を派遣し、高齢者や障害のある方への理解を図ります。

取り組み内容	現状	目標
総合的な学習の時間にボランティア団体を派遣した回数	26回	29回

- 福祉教育を推進するために福祉の心を育む交流事業を行います。

取り組み内容	現状	目標
福祉の心を育む交流事業に参加した小・中学校数	28校	29校
福祉の心を育む交流事業に参加した福祉施設数	14施設	15施設



目標4 地域福祉を推進するしくみをつくる

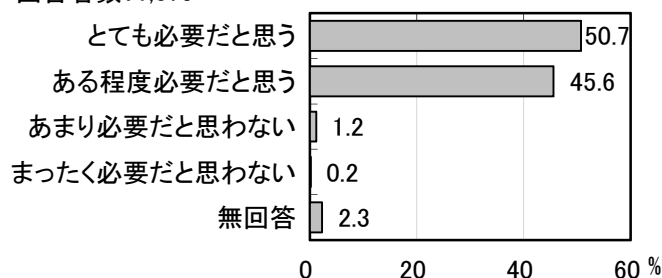
(1) 支え合い、助け合う活動を広めます

現状と課題

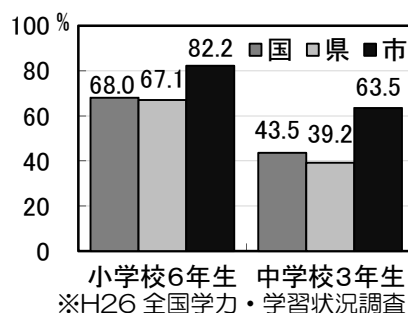
- お互いに支え合い、助け合うことによって、誰もが安心して暮らせるための地域づくりにつながるということを、地域に住むすべての人が認識することが、地域福祉推進のための第一歩です。
- 市民アンケートでは、地域の福祉課題に対する地域の人たちの支え合い、助け合いの必要性については、「とても必要だと思う」が50.7%と半数を超えて最も多く、次いで「ある程度必要だと思う」が45.6%であり、合わせた『必要』との回答がほぼすべてを占めています。
- 市民アンケートでは、ここ5年間に地域活動やボランティア活動をしたことがあるかについては、「ない」が7割を超えて多く、「ある」が2割半ば程度となっています。
- 全国学力・学習状況調査結果では、小中学生とも「地域の行事に参加している」割合が、全国、県より高くなっています。
- 地域に住むすべての人が、地域の主役は自分たちであることを自覚し、それぞれの役割をしっかりと認識し実行するよう、働きかけを行うとともに、地域における日常的な支え合いや助け合いの活動に参加しやすいしくみづくりが必要となっています。

地域の人たちの支え合い、助け合いの必要性

回答者数:1,079



住んでいる地域の行事に参加している



市民の声

【市民アンケートでの自由意見】

- 交流の希薄化、相互扶助の弱体化、少子高齢化の人口減少社会にあって、地域福祉への関心は高まっていると認識しています。住民参加の連携協働は不可欠であると考えます。
- 誰もが住みやすいまちづくりは市民と行政が一体になり協働していかなくてはなりません。まずは市民の方々に福祉に対して関心を持っていただくためのPR活動が必要だと考えます。
- 私も資格はいくつか持っており、何かできることがあればと思います。活かし方がわかりません。埋もれた人材を活かせる方法を考えてほしい。
- 私はボランティアを積極的に行いたいと考えています。若者が積極的にボランティアを行うサークルがないので、そのようなサークル作りや呼びかけをしてほしい。

① 支え合いの基盤として、地域の人とつながりを持つ

市民アンケートで、“地域の人とつながりを持つこと”が「できている」と回答した方の割合

現状

14.9%

目標

23.0%



市民は…

- 地域の主役は自分たちであると自覚し、日頃から地域行事へ参加するよう努めます。



そのために
行政は…

- 市民相互の交流、福祉や健康に対する意識の啓発、ボランティア活動の促進、住民参加による地域づくりを促進するため、関係機関及び団体と行政との協働事業として福祉健康まつりを開催します。

【福祉健康まつり開催事業】

取り組み内容	現状	目標
来場者数	5,306 人	18,000 人
参加団体数	76 団体	80 団体



市民とともに
社協は…

- 世代間交流、ボランティア活動を促進するため、チャリティウォーキングを開催します。

取り組み内容	現状	目標
チャリティウォーキングの参加者数	—	300 人



②地域福祉の知識を高める

市民アンケートで、“地域福祉の知識を高めること”が
「できている」と回答した方の割合

現状

5.3%

目標

10.0%



市民は…

- 「地域福祉」の意味を理解します。
- 地域福祉に関する講演会や研修に参加します。



そのために
行政は…

- 市ホームページに地域福祉計画・地域福祉活動計画を掲載するほか、自治会長や民生委員児童委員、学校関係者等を対象とした地域福祉に係る研修会を開催します。

【地域福祉推進事業、民生委員児童委員協議会運営事業】

取り組み内容	現状	目標
地域福祉研修会開催回数	—	1回
地域福祉研修会の参加者数	—	300人
地域福祉計画・地域福祉活動計画の認知度	26.9%	35.0%
民生委員児童委員全体研修会の開催回数	—	1回
民生委員児童委員全体研修会の参加者数	—	200人



市民とともに
社協は…

- 「社協だより」やホームページなどで、地域福祉の考え方や趣旨について広く周知するほか、実践事例として、「ふれあい・いきいきサロン」の活動紹介や地区社協*の活動報告を紹介します。

取り組み内容	現状	目標
社協だよりへふれあい・いきいきサロンの活動紹介を掲載した回数	5回	5回
社協だよりへ地区社協の活動報告を掲載した回数	4回	4回

- 地域福祉への理解を高めるために、「深谷市社会福祉大会」を開催します。

取り組み内容	現状	目標
深谷市社会福祉大会の参加者数	351人	500人

③ボランティア活動を行う

市民アンケートで、“ボランティア活動を行うこと”が「できている」と回答した方の割合

現状

8.9%

目標

14.0%



市民は…

- ボランティア活動に関心を持ちます。
- 隣近所など地域で困っている人がいれば、できる範囲でボランティア活動（手助け）をします。



そのために
行政は…

- 「広報ふかや」や「市ホームページ」において、ボランティア活動や地域行事の情報を発信するとともに、社会福祉協議会への支援を通じて、ボランティア団体の育成・支援を行います。

【ボランティア交流センター*管理運営事業】

取り組み内容	現状	目標
ボランティア交流センター延利用人数	3,766人	4,000人



市民とともに
社協は…

- ボランティアセンターにおいて、ボランティア登録・紹介・相談・斡旋を行います。

取り組み内容	現状	目標
ボランティア活動保険の保険料を補助した人数	914人	1,070人

- ボランティア連絡会登録団体を対象にボランティアの集いなど交流や情報交換の機会を設けるほか、必要経費の助成や、民間団体等の助成金の情報の案内・紹介を行います。

取り組み内容	現状	目標
ボランティア団体への助成金交付件数	5件	5件

- ボランティア活動の振興及び地域における福祉教育・ボランティア学習を推進するために夏休み体験プログラム事業を行います。

取り組み内容	現状	目標
夏休み体験プログラム事業参加者数	117人	130人

- 有償家事援助サービスの協力会員を養成し、家事の手助けが必要な利用会員を支援します。

取り組み内容	現状	目標
有償家事援助サービス協力会員養成講座の参加者数	44人	80人
有償家事援助サービス協力会員数	61人	150人

- 災害ボランティア養成講座の実施や登録を進めるとともに、災害ボランティアセンター*立ち上げ訓練を実施します。

取り組み内容	現状	目標
災害ボランティア養成講座の参加者数	15人	50人
災害ボランティアの登録者数	117人	150人

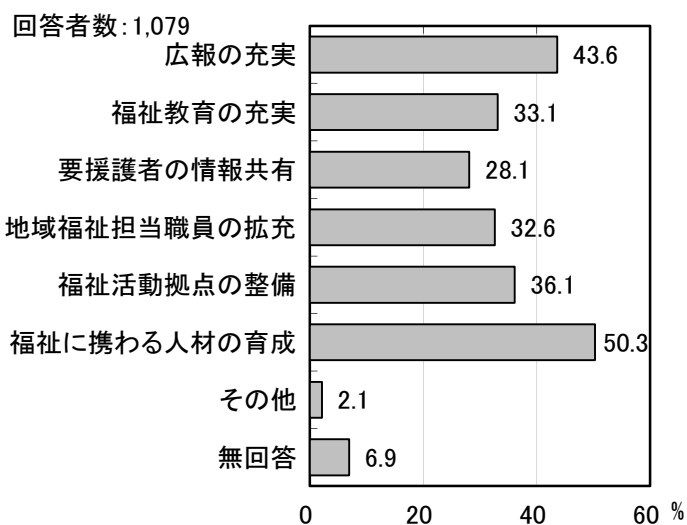


(2) 地域を支える人材を育てます

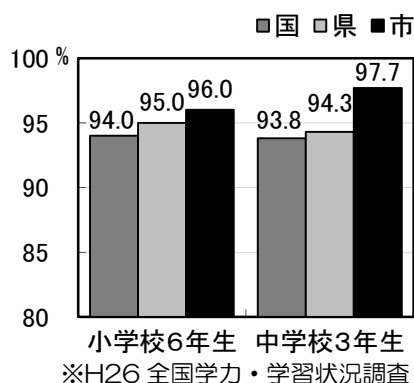
現状と課題

- 地域福祉の推進には、子どもから大人まですべての市民が福祉についての理解を深め、支え合うことが日常あたりまえのことと思えるような環境づくりや人材育成が必要です。
- 市民アンケートでは、地域における助け合いを活発化するために市が取り組むべきことについては、「福祉に携わる人材の育成」が50.3%と半数を超えて最も多くなっています。
- 全国学力・学習状況調査結果では、小中学生とも「人の役に立つ人間になりたい」と回答した割合が全国、県より高くなっています。
- 自治会など身近な活動への参加から、地域を支える取り組みに関われるよう促進するとともに、地域福祉を担う人材の育成に向けて、学校等と連携し、福祉教育を充実していくことが必要です。

地域における助け合いを活発化するために
市が取り組むべきこと(複数回答)



人の役に立つ人間になりたい



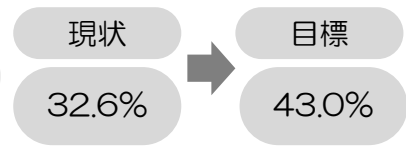
市民の声

【市民アンケートでの自由意見】

- ・まず自分にとって身近な自治会をもっと充実させることだと思う。
- ・自治会で福祉行政に対して、もっと勉強し、地域の人々で福祉活動等に対して自由に参加できるようにしてもらいたい。
- ・必要なことは、‘誰もが少しずつでも協力することが大切’と言う共通認識を育てること。豊かな心を持った人を育てる教育（学校教育だけでなく）が、根底に必要なだと思います。人の気持ちをかえれば、マンパワーは限りなく生きてくると思います。
- ・誰もが関心を持ちまた協力できるようにするためには、小学生の頃から福祉に関する知識や教育を身に付けていけたら自然と慣れ親しむことができていくものと思います。とても大切な事！

①自治会活動に協力する

市民アンケートで、“自治会活動に協力すること”が
「できている」と回答した方の割合



- 自治会に加入し、活動に積極的に参加します。
- 自治会は、加入促進に向けて、活動内容を理解してもらうため、情報発信します。



- 地域福祉を推進する上で重要となる自治会への支援を実施するとともに、その活動内容等を紹介する「連合会だより」を配布し、市民へ周知します。また、広報の配布やゴミゼロ運動など環境美化活動に協力することで自治会活動への支援を行います。

【自治会活動振興事業、コミュニティ活動推進事業】

取り組み内容	現状	目標
自治会加入率	75.1%	76.0%
連合会だより発行回数	2回	2回
広報等の配布協力自治会割合	100%	100%

- 各地区の定員に対して欠員なく民生委員児童委員を委嘱し、自治会とともに地域福祉を推進するために必要な支援を行います。

【民生委員児童委員協議会運営事業】

取り組み内容	現状	目標
民生委員児童委員充足率	99.2%	100%



- 自治会単位で開催するふれあい・いきいきサロンを支援します。

取り組み内容	現状	目標
ふれあい・いきいきサロンへの助成金交付件数	496件	570件

②福祉教育の充実

市民アンケートで、“福祉教育の充実”が「できている」と回答した方の割合

現状

1.3%

目標

5.0%



市民は…

- 子どもから大人まで、誰もがお互いの気持ちや親切心を大切にし、お互いを思いやる心を育てます。



そのために
行政は…

- 小・中学校において、発達段階に即した福祉教育の実践や福祉体験の実施を推進し、福祉教育の充実を図ります。その一環として、子どもたちに忠恕の心（まごころと思いやり）を育むために、一人暮らしのお年寄りの家に花と小学生が書いた手紙を届ける「まごころ訪問」を実施します。

【小・中学校における福祉教育事業】

取り組み内容	現状	目標
福祉教育の実施校数	29校	29校
まごころ訪問実施校数	19校	19校



市民とともに
社協は…

- 福祉教育を行う小・中学校の総合的な学習の時間において、学校側とボランティア団体側との調整を行います。

取り組み内容	現状	目標
総合的な学習の時間にボランティア団体を派遣した回数	26回	29回

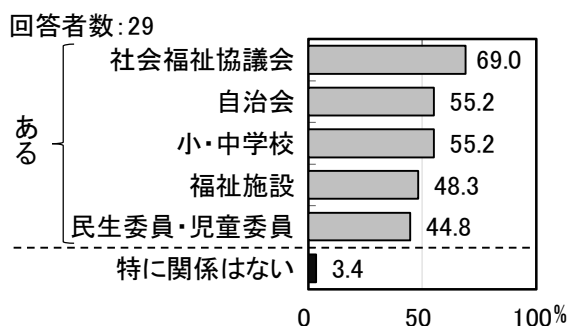


(3) 団体の交流や連携を図るしくみをつくります

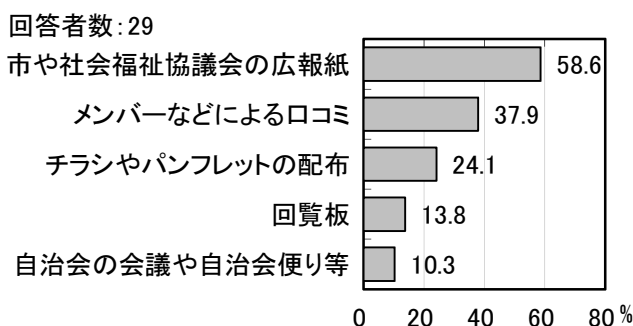
現状と課題

- 地域には、地域福祉に関連する活動を行うさまざまな団体があり、地域に根ざした活動を行う団体やボランティア団体のように地域を越えた広い範囲で活動している団体など、それぞれが目的を持って活動しています。
- 団体アンケートでは、ほぼすべての団体で、他の団体や機関等との交流や連携、協力関係が「ある」という回答となっています。また、連携や協力関係がある団体の詳細については、「社会福祉協議会」が69.0%と最多で、次いで、「自治会」「小・中学校」が55.2%と多くなっています。
- 団体アンケートでは、団体の活動情報の発信手段として、「市や社会福祉協議会の広報紙」が58.6%と最も多く、次いで「メンバーなどによる口コミ」が37.9%、「チラシやパンフレットの配布」が24.1%となっています。
- 地域福祉の活動を地域の中で広めていく上で、これらのさまざまな団体や活動が幅広く連携、交流していくことが必要です。

他の団体や機関等との交流や連携、協力関係
「ある」上位5位(複数回答)



団体の活動情報の発信手段
上位5位(複数回答)



市民の声

【市民アンケートでの自由意見】

- ・イベント事を企画しても広告がそこまで機能していない気がする。ボランティア活動一つとってもそれを行いたい人がそういう場を探して、自ら連絡をとり、参加する形が多い。どういう活動があるか知らない人が多いため活動の広告や参加呼びかけが必要だと常々思います。
- ・このアンケートに答えていて私にあまり地域活動の情報がないことに気づきました。市の広報紙の福祉関係記事の充実と配布の仕方の工夫をお願いします。

【団体アンケートでの意見】

- ・行政・社会福祉団体・自治会・民生委員児童委員協議会等さまざまな団体の連携と協力が大切であると思う。
- ・社協ボランティアの団体登録を通じての情報交換を行っている。
- ・自治会の諸行事に積極的に参加し活動の内容を発信するとともに、諸団体との連携を大切に、コミュニケーションを深め相互に協力し活動している。

①広報等で地域の団体の情報を得る

市民アンケートで、“広報等で地域の団体の情報を得ること”が「できている」と回答した方の割合

現状

18.8%

目標

29.0%



- 地域にある機関・団体に関する情報を収集します。
- ボランティア交流センターを積極的に活用します。



- 社会福祉協議会との協働により民生委員児童委員やボランティア団体の活動を支援し、市民に対してはその情報を紹介することで、ボランティア活動の推進を図ります。

【ボランティア交流センター管理運営事業、民生委員児童委員協議会運営事業】

取り組み内容	現状	目標
ボランティア交流センター延利用団体数	387 団体	500 団体
民生委員児童委員の認知度	51.3%	60%

- 地域福祉に関連する活動を行う団体等について、「広報ふかや」により情報発信することで、さまざまな団体間の連携と協力を推進します。

【広報ふかや発行事業】

取り組み内容	現状	目標
広報ふかやに対する市民満足度 ※	86.0%	86.0%

※出典は e アンケートによる

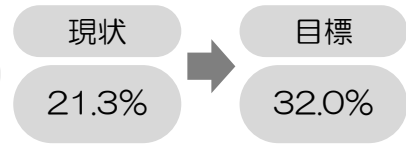


- 社会福祉協議会の活動内容を理解してもらうための情報発信をするほか、「ボランティアかわらばん」などにより、地域にある機関・団体に関する情報を発信します。

取り組み内容	現状	目標
社会福祉協議会の認知度	75.6%	80.0%
ボランティアかわらばん発行回数	5回	5回

②地域行事やイベントへ参加する

市民アンケートで、“地域行事やイベントへ参加すること”が「できている」と回答した方の割合



市民は…

- 自治会、老人クラブ、子供会などが行う地域行事に参加します。
- 隣近所で、地域行事への参加を呼びかけ、ともに参加します。



そのために
行政は…

- 地域コミュニティの担い手である自治会が実施する、伝統的な祭りに使用されている山車・屋台の改修補助を行うことで、地域コミュニティの活性化を図ります。

【自治会活動振興事業、コミュニティ活動推進事業】

取り組み内容	現状	目標
自治会加入率	75.1%	76.0%
コミュニティ補助金の交付割合	100%	100%



市民とともに
社協は…

- 各種行事やイベントに参加し、社会福祉協議会の活動内容を理解してもらうための情報発信を行います。

取り組み内容	現状	目標
各種行事やイベントで情報発信した回数	1回	2回

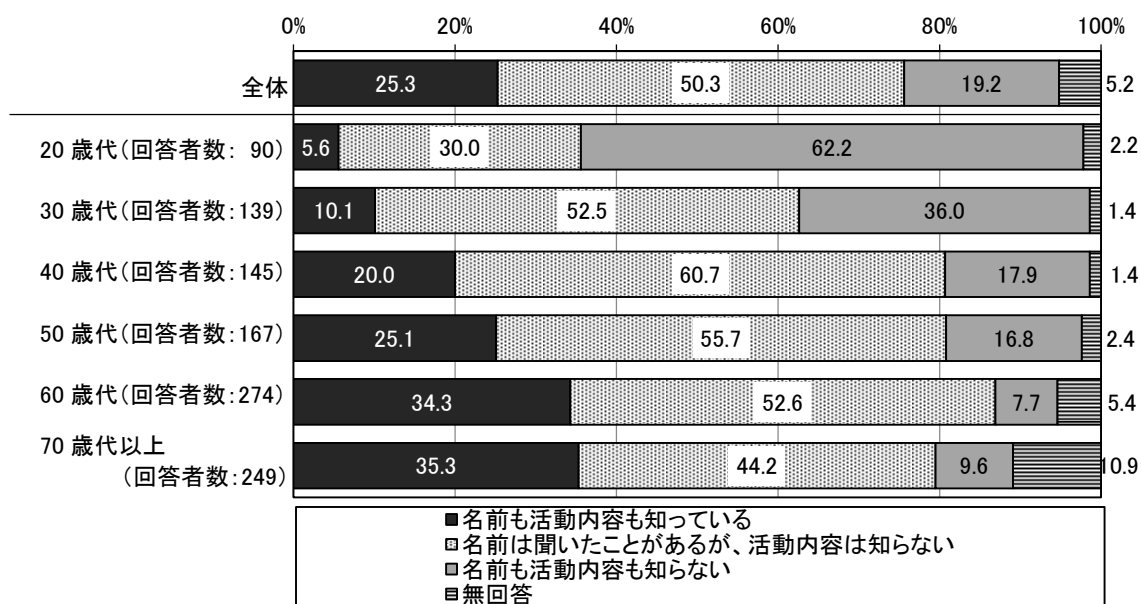


(4) 社会福祉協議会の活性化を図るしくみをつくります

現状と課題

- 社会福祉協議会は、地域福祉を推進するための中心的な団体として位置づけられており、市全体の福祉意識の高揚を図り、活発な活動に結びつけていくための重要な役割を果たしていくものとして期待されています。
- 深谷市社会福祉協議会を知っているかという問いについては、「名前は聞いたことがあるが、活動内容は知らない」が半数以上で最も多く、次いで「名前も活動内容も知っている」が2割半ばとなっています。年代別でみると、年代が上がるほど「名前も活動内容も知っている」が多くなっています。
- 一層の認知度向上に向けて、地域に根ざした事業を進めるとともに、関係機関や団体などとの連携を強化し、地域福祉を推進していくことが必要となります。

深谷市社会福祉協議会を知っているか



市民の声

【市民アンケートでの自由意見】

- ・社会福祉協議会職員の皆様は、いつも丁寧に相談にのって下さり安心して相談できる場となっております。感謝しております。
- ・社協の活動が分かりにくいので、頑張してほしいです。
- ・社会福祉協議会と地域社会の役割分担を知りたいと思います。

【団体アンケートでの意見】

- ・深谷市社協にボランティア登録して、各種活動に参加しています。

①社会福祉協議会の活動を理解する

市民アンケートで、“社会福祉協議会の活動を理解すること”が「できている」と回答した方の割合

現状

8.9%

目標

14.0%



- 「社協会員」となり、積極的に社会福祉協議会の活動に参画します。
- 赤い羽根共同募金、歳末たすけあい募金の活動に、積極的に協力します。
- 社会福祉協議会が発行している「社協だより」やホームページなどを読み、活動内容の把握と理解に努めます。



- 広報やホームページ等で情報発信し、社会福祉協議会に対する認知度の向上を図るとともに、社会福祉協議会が地域ニーズに合った事業展開や活動の充実が図れるよう支援します。

【社会福祉協議会運営補助事業】

取り組み内容	現状	目標
社会福祉協議会への市の補助金交付割合（交付／申請）	100%	100%



- 社会福祉協議会で実施している各種事業や共同募金運動などの活動について、社会福祉協議会が発行している「社協だより」やホームページなどにより情報発信します。

取り組み内容	現状	目標
社協だよりの発行回数	5回	5回
社会福祉協議会ホームページアクセス数	11,825件	13,000件

- 事業の自主性を高めるために、社協会費や寄付金などの自主財源の確保に向けて、社協会員の拡大に努めます。

取り組み内容	現状	目標
社協会員加入率	81.1%	84.5%